



CLOSE UP ATHLETE

「アスリートとして、カヌーの魅力伝えていきたい」

カヌー選手・矢澤亜季さんインタビュー

アウトドアヴィレッジと関わりの深いカヌー選手・矢澤亜季さん。

矢澤さんにカヌーの魅力を教えてもらいました。

文◎金澤玄昭 Text by Haruaki Kazanawa
写真◎後藤武久 Photo by Takehisa Goto

「日常生活では味わえない水上を進むという不思議な感覚が新鮮で楽しかったのを覚えています」

これは矢澤亜季さんが初めてカヌーに乗ったときの感想だ。その後、競技の世界に足を踏み入れた彼女はメキメキと頭角を現し、数々の大会を制覇。いまでは世界を舞台に活躍するトップアスリートである。ただ、競技中心の練習に励んでいるいまでも昔と変わらず大自然のなかでパドルを握るのが大好きなんだとか。

「人工コースは競技力を高めることが目的ですが、自然のなかでのカヌーはリラックスできますし、気持ち豊かになるんですね。四季を楽しみ、緊張感をほどいてくれるというか……。自然の川だと季節や日によって異なる景色や水量を味わえる。そんな一期一会的な楽しみ方も魅力です。とくに奥多摩のように山が周りにあると、いろんな木々が水面に映ります。それは陸上だけの生活じゃ味わえない風景だと思います」

矢澤さんにカヌーのベストシーズンを聞くと、「冬はすごく寒いけど雪が降れば雪景色を楽しめるし、春は桜を見なが

ら漕げて、夏は緑が、秋は紅葉が美しいです。だから、1年中でできるスポーツだと思うんです」とのこと。

そんな矢澤さん、じつはアウトドアヴィレッジとの繋がりがかなり深い。

「アウトドアヴィレッジを運営する昭和飛行機都市開発とはスポンサー契約ではなく、企業とトップアスリートマッチングするJOC（日本オリンピック委員会）の就職支援制度『アスナビ』で、2015年の2月に社員として入社させてもらったんです。現在は世界大会で成績を残せるように競技中心の生活を全面的に支援してもらいながら、夏にはアウトドアヴィレッジの屋内広場に設置される大型プールでのカヌー体験イベントで漕ぎ方などをレクチャーしたりもしています。いつかイベントに参加された子どもが成長し、徐々に競技にも興味を持ってもらえるとう嬉しそうですね。ただ、まだカヌースラロームという競技の認知度は低いと思っているので、私が成績を残してメディアで取り上げられ、カヌー競技、そしてカヌーの魅力伝えていければと思っています」

Profile

矢澤亜季(やざわ・あき)

1991年、長野県出身。小学3年のときに兄の影響でカヌーを始め、父親の指導によりスキルを伸ばす。中学2年時に日本ジュニア優勝。中学3年で世界ジュニア出場、全日本選手権優勝。全日本選手権ではカヌースラロームで計6回の優勝を果たしている。リオデジャネイロ五輪出場

